

プロへの夢 胸に秘め



挑戦

和歌山箕島球友会

第41回社会人野球日の岸翔太選手(23)。「企業選手権大会は30日、業チームを見返したい大阪市の京セラドームし、成長した姿を見せたいの出場で初勝利を目標にしたい」。1回戦の相手は和歌山箕島球友会。手はNTT東日本(東京)。胸に秘めた強い思いを、31日の初戦にぶつける。



夜のグラウンドで黙々とバットを振る岸選手

有田市宮崎町のマッペン有田球場で

岸翔太選手 あすの初戦へ闘志

岸選手はまだ幼稚園9の俊足で攻撃の中に通っていた頃、兄達心を担う。NTT東太さん(24)に続いて野球を始めた。企業チームのデブプロ(2008年解散)で活躍した父真則さん(50)が指導に当たった。京都明德高(京都市)では主に二塁手として活躍。日本選手権優勝3回の大阪ガスに入社したが、昨年の日本選手権敗退後、「戦力外」を通告された。

引退して一社員として会社に残留か、箕島への入団を誘ってくれた西川忠宏監督(54)の下で野球を続けるか。迷ったが、クラブチームからプロを目指す道を選んだ。

入団後は一塁手に転向し、強打と50打5秒

勝ち進めば、準々決勝で古巣との対戦も実現する。「実力は企業チームに劣るが、うちはどこが相手でも実力以上の力を出して戦える」。全体練習後、暗くなったグラウンドで素振りを繰り返す姿に、強い決意がにじんだ。

【高橋祐貴】

市和歌山高野球部元監督、真鍋忠嗣さん

(58)



北面成也投手と榊原皓捕手は高校時代の3年間を預かった選手。教え子の活躍を聞くことほどうれ

しいことはないです。せっかくなので、どんな形でもチームの役に立ってくれることを期待しています。シーズン後、元気な姿をまた見せてください。

頑張れ

和歌山箕島球友会



JAありだ共選協議会、有田みかん大使の栗山ちさきさん(19)

野球は2014年のセンバツに出場した母校、海南の試合などを観戦したことがあります。団体競技のチームワークがいいと思いますが、有田のミカンをたくさん食べて、チームワークを武器に日本一を勝ち取ってください。